

カトリック 仙台教区報

2007年7月1日 No.176

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

聖霊は「神の愛」そのもの

聖霊降臨祭 平賀司教説教

いづくにさる
主・イエス・
キリストです。
わたしたち

聖霊降臨の祭日。わたしたちは今日、全世界の教会と共に、神の愛の霊・聖霊が使徒たちの上に降ったこと、そして、聖霊の力によって、キリストの弟子たちの集まりである教会がこの世界に公に現れるものとなった、という出来事を記念し祝います。今日はいわば、私たち教会の誕生日という大きな祝いの日であります。

祈るときわたしたちは、十字架のしるしをしながら、「父と子と聖霊のみ名によって。アーメン」と唱えます。それは、「わたし(たち)は父と子と聖霊の三位一体の神のものです」という信仰・確信を表明するしぐさです。では、その父とはどのような方でしょう。わたしたちは知っています。すべてのものの創造主。いのちの源であられ、いのちを限りなく慈しんでくださる方、わたしたちすべての「父である神」です。

わたしたちは「イエス・キリストは主である」と信じていますし、そう宣言します。これについて聖パウロは「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えない」と書いています(1コリント12・4)。ということは、このように信仰を宣言できるのは聖霊によることであり、内で働いてくださっているからです。

わたしたちはよく祈ります。祈ることがすきなのです。たとえば「主の祈り」。「天におられるわたしたちの父よ」。今日の第2朗読には、「この霊によってわたしたちは、『アッパ、父よ』と呼ぶのです」とありました。御父に呼びかけ、祈りをするとき自分が、わたしたちと共にいてくださる聖霊の業のしるしとなります。



聖信式を行う平賀司教(元寺小路教会)

「子」とはどのような方でしょう。父である神のひとり子、わたしたち人類の救い主。その死と復活によってわたしたちの罪をゆるし、わたしたちすべてを神の命にあずかる者・神の子らとして招

霊というのは、日本語の語感では、得体の知れない、とらえどころのないもののような気がしますが、ベネディクト16世教皇様は、今年の「世界青年の日(4月1日)」のメッセージで次のように述べておられました。「(聖書の『ヨハネの手紙・1』に『神は愛である』とありますが、)三位一

体(三位一体)の神のうちでは、御父と御子の位格の間でとこしえに愛が交わされています。この愛はエネルギーでも感情でもありません。それは聖霊という位格なのです」と。

「聖霊は、エネルギーとか感情とかというようなそれ自体では実体として存在しないものではない。神の愛そのもので、『父』と『子』と同じく、位格である方です」という説明です。わたしたちが、「父である神さま」と呼びかけたり、「主イエス・キリストよ」と呼びかけたりできると同じように、その助けや導きを願い、信頼をもって「神である聖霊」と呼びかけることのできる相手であってくださる方だ、ということなのです。

この聖霊について、今日のヨハネによる福音でイエスはこうおっしゃいます。「わたしは父にお願ひしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください」。また、「(この助け主である)聖霊が、あなた方にすべてのことを教え、わたしが話したことをごとごとく思い起こさせてくださる」と。

神の愛そのものである聖霊は信じる者と共にいてくださり、内から働きかけてくださっています。私たちが、このことを体験してはいるのですが、気づいていないでしょうか。

わたしたちは「イエス・キリストは主である」と信じていますし、そう宣言します。これについて聖パウロは「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えない」と書いています(1コリント12・4)。ということは、このように信仰を宣言できるのは聖霊によることであり、内で働いてくださっているからです。

わたしたちはよく祈ります。祈ることがすきなのです。たとえば「主の祈り」。「天におられるわたしたちの父よ」。今日の第2朗読には、「この霊によってわたしたちは、『アッパ、父よ』と呼ぶのです」とありました。御父に呼びかけ、祈りをするとき自分が、わたしたちと共にいてくださる聖霊の業のしるしとなります。

今日の福音では、また、「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る」とのイエスの言葉があります。聖霊は、わたしたちがイエスの言葉を守って生きるようにと、イエスが話されたことを思い起こさせてくださる方です。イエスの話されたことを一言で言うならば、「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し(汝等へ)



教会は政治や社会の問題について無関心で いることはできません

司教 マルチノ 平賀 徹夫

日本カトリック司教団は去る2月の臨時司教総会で「信教の自由と政教分離に関する司教団メッセージ」を採択し、教会および社会に向けて発表しました。そして3月末には、そのメッセージ全文とメッセージ理解の助けとなる論考を収録した『信教の自由と政教分離』というタイトルの書籍がカトリック中央協議会から発行されました(600円+税)。教区司祭団では5月の例会のときこのメッセージを読み、グループに分かれて話し合いをしました。仙台教区の皆さんにもぜひとも読んでいただき、できれば話し合いをするなどして、カトリック者としてどのような姿勢をとるのが良いのか等、考えを深めていただきたいと思います。

わたしたちは「あなたの宗教は?」と尋ねられるならば「キリスト教・カトリックです」と答えますが、「政教分離」という言葉を、そのように自分の宗教を明言する者は政治に関わる問題についての発言や行動は控えるべきだと、自己規制を求めるような意味合いを持つものであるかのようになんとなく思い込んできた節がなかったでしょうか。そうだとすればまったくの誤解です。「カトリック教会はキリストの愛に基づいて、国内と国際間に正義と愛がいつそう広く実行されるよう寄与すること、人間の基本的権利や救いのために必要であれば、政治に関する事からにおいても倫理的判断を下すことを、その果たすべき大切な務めとして自覚しています」と司教団メッセージは言います。

司教団メッセージはこれが最初のものではありません。1983年7月に『平和への望み~日本のカトリック教会の福音的使命~』、1995年3月に『平和への決意 戦後五十年にあたって』、2005年の平和旬間に『戦後60年平和メッセージ「非暴力による平和への道」~今こそ預言者としての役割を~』などすでにありますが、どれくらい広まっていたでしょうか。これはみな読んでも読まなくても良いものではなくて、必ず読むべきものです。日本という社会の中であって、教会すなわちわたしたちがキリストの愛・福音に基づいて発言し行動していくための指針の発表だからです。

わたしたちは政治や社会の問題について無関心でいることはできません。

合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる(ヨハネ13:34) 35)「ということでしょうか。わたしたちはいつでもこの言葉を心に留めています。聖霊がいつもこのことを思い起こさせてくださっているのです。そして聖パウロは「神の霊に導かれるように(今日の第二朗読)」、「霊の火を消してはいけません(1テサ5:19)」と勧めています。

いまから堅信の秘跡が授けられて、主・キリストと結ばれて生きるように力づけてくださる聖霊は、一人ひとりの上に降り、包みこみ、「あなたは神の愛に堅く結び付けられた者。世にあつて、キリストの愛の証人として生きる者」という消えないしるしを、聖魂に刻みつけてくださいます。堅信の秘跡を受けるのは、この聖霊の呼びかけに一人前のキリスト信者として「はい、わたしはそのよう



うな者として生きます」とお答えすることです。キリストが話されること・神のお心を、毎日の生活の中で思い起こし、それを人々に伝える者となります、との意思表示が分かる言葉で、神の偉大な業を語る「ように遣わされるのです。こつして、わたしたちキリスト信者の集いである教会がここにあら、ということの意味を、世に表していきます。

堅信の秘跡を受ける皆さん、そして既に受けている皆さんも、聖霊の助けによって「わたしがあなた

たがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」とのイエスの言葉を守って歩みます、という決心を新たにいたしましょう。そのためにも、神の愛そのものであり、助け手である聖霊に、「弱いわたしを助けてください。そしてわたしたちを遣わしてください」との祈りを、信頼をこめてささげたいと思います。

平和旬間 平和を求める ミサ 実施について

今年の平和旬間においては、

8月12日(日)に仙台教区として「平和を求めるミサ」をささげることといたします。式次第は人権を考える委員会に作成を依頼し、教区本部事務局より各小教区に7月中旬頃に配布することとなります。各小教区で必要数を準備し、仙台教区で一致して平和を求めるミサを行います。

既に12日ミサを他の意向(例えば、聖母被昇天など)で行うことを教会行事として予定している場合は、別の日に「平和を求めるミサ」を小教区で行うようにしてください。(仙台司教 平賀徹夫)

宣教司牧評議会の動き

5月19日(土)午後1時より、教区センター2階会議室で、同評議会の役員会が開催された。

今回の議題は

外国籍信徒のための相談窓口設置準備委員会からの報告承認について。(4頁参照)

活性化研修のフィードバックについて。

・各員が行われる活性化研修会と、県大会とをリンクするような方向で考えてはどうか。

・各員からの研修会の報告をどのように生かしていったらいいか。

典礼の霊性を深める 21

司教神学顧問 佐々木 博

派遣の霊性を生きる

「ミサ」といふ言葉は、ミサの閉祭の派遣の祝福を与えるときの「イテ、ミサ エスト」というラテン語の文から取られたのです。6世紀頃から、「このミサ」が「感謝の祭儀」全体を表す名称になったことは、大変意義深いことです。つまり、ミサの典礼が、派遣で終わるのは、まさにミサの本質を表していると言えるからです。

改めて、ミサ制定の最古の記録とされるパウロのこぼしを確

・必ずしも研修会の成果を求めなくともよいのではないか。その場での「分かち合い」「学び合い」「支え合い」に意味がある、等の意見交換が行われ、2007年度の研修会実施計画の中で検討することとした。

なお、研修会の実施計画については、9月の宣教司牧評議会定例会において承認を受けるよう準備を進めていくことになった。

また、今回教区広報担当者との意見交換が行われ、「教区報」を仙台教区としての情報発信にもっと有効に活用していくことを確認した。

認してみました。「あなた方は、このパンを食べることに、主が来られるときまで、主の死を知らせるのである。」(一コリント11・26)。まさに、福音宣教がミサに含まれているのです。ですから、ミサが終わるときに、今度は生活と仕事の場において、福音を告げ知らせるために派遣されるのであります。

しかし、実際、このミサの派遣をどれだけ意識しているのでしょうか。ミサを終えることが、宣教の開始であることを自覚し、実践しなければなりません。「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えな

仙台教区の組織から

財政問題評議会とは

財政問題評議会は、カトリック新教会法典492条に定められている教区組織です。

主な役割は、教区財政の確立並びに維持に關すること。財産管理の適正化を図ること。予算書と決算書の作成に關すること。宗教法人法の遵守と整合性をはかること。等、教区財政全般にわたる諸問題について専門家の立場から必要に応じて助言や具体的提言を行うものです。

仙台教区財政問題評議会は、平賀司教、佐藤守也総代理、和

さい(マルコ16・15)という主のご命令を実行するために、ミサをささげると言えましよう。ですからミサと福音宣教は、決して切り離すことはできないのであります。

このように典礼の霊性には、福音を告げ知らせるために派遣されて行くという霊性が含まれているのです。ミサに集まり、そのミサが終われば、また、それぞれの場に派遣されることによつて、ミサが、広がって行くのです。



野教区会計と評議員として4名の信徒と2名の監事が司教より任命を受け、司教が必要に応じて招集することになります。

今までの主な活動をあげてみると、宗教法人「カトリック仙台教区」規則の全面的改定や毎年度の予算案、決算書が適正かの審議、ペイ・オフについて各教会の会計担当者がどう対応すべきかについての助言などがあります。

今後取り組むべき課題として、教会維持費が減少傾向になることへの対応。各地にある小教区の教会財産を維持運営していく基本的なルールと財政的な裏付けをどうするか。が挙げられます。(根反弘)

塩と光

今、直面している信仰の危機の一つは、生活の中から、信仰を表し、育てる機会を取り除いてしまつてことです。これは、何を選び、何を優先させるかというまさに信仰に基づく価値観の崩壊でもあります。

特に、幼児洗礼の子どもや若者たちが、例えば日曜日は何を選ぶかという具体的な場面で問題でもありません。ミサを優先させるのか、或いは部活や、習い事や、スポーツを選ぶのか、が問われているのです。信者がとつて日曜日のミサに参加することを、最優先させるとい

う信仰の価値観が、まず親たちに根付いていないのでしょうか。また、子ども、若者たちの信仰をしっかりと育てることの責任を、本当に自覚しているのでしょうか。教会の中で子どもたちや若者たちの姿が見えなくなつてしまつ最大の原因は、わたしたちの信仰が、生活から離れてしまつてい

ると思います。各家庭が、そして共同体が、真剣に子ども、若者たちの信仰教育に取り組むことこそが、わたしたちの最優先課題です。そして、そのための、プログラムを各小教区で実践することです。

(博)

司教日程

- 7・1 宮城聖公会
- 2 人権を考える委員会
- 3 司教評議会 教区司教団役員会
- 11・12 東北教区管区協議会
- 21 宣教司牧評議会役員会
- 30・8・1 若手卓カトリック幼稚園 教職員研修会
- 8・12 平和司問 平和を願つミサ 責務カトリック幼稚園 教職員研修会
- 17 福貴園カトリック幼稚園 教職員研修会
- 21 教職員研修会
- 22 臨時司教評議会
- 27・31 司教セミナー

ペトロ口岐部と187殉教者 列福決定

教皇ベネディクト16世は、6月1日午後9時(日本時間)、日本カトリック司教協議会(会長野村純一)が、かねて教皇に申請していた「ペトロ口岐部と187殉教者」の列福を承認する教令に署名し、これを裁可した。

列福式の日程と会場については、今後教皇庁と司教協議会が協議して、後日、決定される。

188殉教者の列福調査は、三八・パウロ2世教皇来日直後、1981年に開始された。それから四半世紀を経た今年の5月、教皇庁列聖省の神学審査委員会は、188殉教者の列福を了承し、同省の枢機卿会議の承認のもとこの度教皇の裁可が下された。

これを受けて司教協議会会長の野村純一司教は、「188人の



ペトロ口岐部と187殉教者 画・佐久間彪神父

また、大半は司祭・修道者でなく、武士や町人を含む、普通の家庭生活を送った老若男女です。いのちをかけて信仰の自由を守り抜いた当時の信徒たちが、世界の教会から評価されることは、まことに感慨深いことです。(中略)日本のキリスト教会の慶事であるに留まらず、わが国全体にとつて、大きな意義をもつと思います。(中略)ペトロ口岐部と187殉教者が、福者の列に加えられるまでには、教皇の代理による列福式を待つことになりま

す。それまでの間、なお188人の殉教者の生涯とその意義について、各方面において、いっそう深めることができればと念じています。」との談話を発表

した。なお、「仙台教区報175号」で

発表した、列福式参

加のツアーについ

ては、列福式の日程

会場が決定した時

点で、詳細をお知らせ

いたしますので、

それまでお待ちくだ

さい。

外国人ヘルプデスクを設置します

080-1855-5149

仙台教区「人権を考える委員会」は、外国籍信徒に関する取り組みについて検討してきました。

委員会の調査によると、仙台教区においても年々外国籍信徒が増加の傾向にあり、その方々を受け入れるサポート体制が整っていないことがわかりました。

そこで、昨年11月「カトリック教会は多国籍である」という認識のもと、生活上のさまざまな困難を抱える外国籍信徒の相談に心し、援助をするための窓口を設置することが望ましい」と司教に報告し、8月1日より「カトリック仙台教区外国人ヘル

プデスク」を設置することになりました。このヘルプデスクは、悩みを聴くだけでなく、相談内容によっては、公的機関や、専門機関、活動団体との連携により問題解決のための援助を行います。

周りにお困りの外国籍信徒の方や、協力して下さる方がありましたら、「ご連絡くださいませう、お声がけ下さい。当面、対応可能な言語は、英語、スペイン語、韓国語、ポルトガル語です。」相談は、月曜日から土曜日の9時から18時まで、電話FAXにてお受けします。

「生涯消えることのないしるしを自覚し、共同体の一員として信仰を一層深めていく覚悟です。石川和夫(男・70歳代)東仙台教会・教会活動の中で、いつも皆さんと共に、キリストを中心として生活する喜びを感じてまいりました。所属教会の皆さんに倣いながら、身近で小さなことに心を止めて、歩んでまいります。

(教区本部)

ハンセン病シンポジウムに向けて

来る11月3日(日)元寺小路教会大聖堂において「ハンセン病シンポジウム」を開催することになりました。これは、日本カトリック部落問題委員会が主催して行われているものです。今年度は長崎、大阪に次いで仙台で、教区人権を考える委員会との共催で行われることになりました。メインテーマは「ハンセン病とカトリック：隔離から解放へ」です。

ハンセン病とカトリックの関わりは古く、全国のほとんどの療養所内にはカトリック教会があります。それぞれの場でも入所者を支えるさまざまな働きがあったことでしょう。しかし、身近にいて献身的に働かれた人たちが、差別に立ち向かう力とはなり得なかったという事実を私たちが一人一人、自らへの課題として受けとめていきたいと思えます。(人権を考える委員会 猪俣 睦子)

仙台教区には、青森市に松ヶ丘保養園、宮城県登米市に東北新生園の2ヶ所の国立ハンセン病療養所があり、それぞれ150〜160名の入所者がおられます。すでに病気が治っている方がほとんどですが、高齢化や後

堅信の秘跡を受けて

5月20日(日)・主の昇天)弘前教会、27日(日)・聖霊降臨(元寺小路教会)において、それぞれ堅信の秘跡が行われた。受堅者の秘方々から喜びの声を寄せていただいた。(敬称略)

高橋 洋至(男・60歳代)

弘前教会・「聖霊の恵み」

「生涯消えることのないしるしを自覚し、共同体の一員として信仰を一層深めていく覚悟です。

石川和夫(男・70歳代)東仙台

教会・教会活動の中で、いつも

皆さんと共に、キリストを中心

として生活する喜びを感じて

まいりました。所属教会の皆さん

に倣いながら、身近で小さな

ことに心を止めて、歩んでまい

ります。

佐藤久美子(女・50歳代)弘

前教会・司教様のほほえみは

愛で満ちあふれているように

感じました。これからの人生を

神様への信仰と愛と希望を持

ち、一日一日を大切に歩みたい

と思えます。

沼田 楓(女・10歳代)元寺

小路教会・堅信式でたくさんの

方からお祝いの言葉をいただき、

教会の中でとても大切にさ

れていることを感じ、嬉しかっ

たです。これからは、してもら

うだけでなく、してあげられる

人になりたいです。

講演要旨

「DVと児童虐待の現状 私たちができること」

講師 ハーティー仙台代表 八幡 悦子

DVは最近になって理
解されるようになってき
たが、30年前には被害者も警察
も、夫のことだから仕方がない
と諦めたり、放置したりしてい
た。DVという言葉すら聞いた
ことがなかった。

今、DVは社会的理解を得た
が、実際には、減るところが増
え続けている。

DVには、身体的、精神的、
性的、経済的な暴力があるが、
DV家庭で育つ子どもには、さ
まざまな悪影響が現れる。すべ
ての子どもが該当するわけで
はないが、身体的不調、引きこ

もり、不登校、家出、自虐的行
動、攻撃的行動など、その子ど
もが本来持っているものでは
ない方向へ進んで行ってしまう
。それは、自分を守るうとす
る結果でもある。子ども自身も
暴力や性暴力を身近な人から
受けている場合が多い。このよ
うに、DVは、児童虐待につな
がっている。そこから子どもを
助け出すには、DV被害母子へ
の早期の支援が大切になって
くる。

いる場合が多い。従って、
もしこのようなケースに気
付いたら、思い切って相談
に乗り、相談窓口の紹介、
法的に守ってもらえること、ど
の年齢の人もやり直せること
を伝えてほしい。心身ともに疲
れきっている人は、分かってい
ても電話もできないので、近所
のおせっかいな人になって背
中を押してあげることが必要
である。

* DV：ドメスティック・バ
イオレンスの略。夫やパートナ
ーなどの親密な関係にある男
子からの女性への暴力
* ハーティー仙台 電話相談
0222258801
月 金 13時30分～16時30分



ドミニコ会 原田 雅樹 神父
私は、ドミ
ニコ会の司
祭で、今年
の4月より
仙台白百合

女子大学で教鞭をとっており
ます。最近、本屋に行き、ぶ
らぶらしたり、新聞の書評に
目を通したりしていると、「記
憶」や「歴史」というタイト
ルのついた本が目につきま
す。『戦争の記憶を歩く』（早
瀬晋三、岩波書店）、『法と暴
力の記憶』（高橋哲哉、北川東

招きにごたえて



子、中島隆博編、東京大学出
版会）、『歴史で考える』（キヤ
ロル・グラック、岩波書店）
等等。戦争をはじめとする人
間の悲劇の歴史をどう記憶
し、語り継いでゆくのか。悲
劇の記憶を報復ではなく、赦
しと和解へと向けていくには
どうしたらよいか。個人あ
るいは特定の民族の悲劇の記
憶を、狭く閉じ込めるのでは
なく、人類の記憶として開き、

この講演は、6月10日、元寺
小路教会で行われた「あけの星
会」総会の中で行われたもので
す。
(竹内淑子)



聖体拝領につ
いて

Q：ご聖体拝領の
たびに思うのですが、
手でご聖体をいただく人と、口
でご聖体をいただく方がいらっ
しゃいますが、どちらが正しい
のでしょうか？

A：第2バチカン公会議後の典
礼刷新に伴い、感謝の祭儀のさ
ざげ方がいろいろ変化しました
その中の1つに、ご質問の聖体
拝領の方法があります。

結論から申し上げますと、ど
ちらが正しいというものではな
く、どちらも正しいのです。

日本の司教協議会の申請に応
え、1970年6月27日に、教
皇庁典礼聖省（現・典礼秘跡省）
長官ベンノ・グート枢機卿様は、
聖体を手に授ける許可を出され
ました。

この中で、同枢機卿様は「拝
領の具体的方法については、古
代教会の伝統が伝えていく方針
に従うのがよいでしょう」と勧
めています。では古代教会の伝
統とは、どのようなものでしょ
うか。紀元400年頃に書かれた工
ルサレムの教理書には、次のよ
うに書かれています。

「あなたが祭壇に近づくとき
…左手を右手の玉座のようにし
なさい。…あなたの手のくぼ
みにキリストのからだをいただ
き、同時に『アーメン』と言
いなさい」と。

従来の方による口で拝領す
ることを望む人は、司祭の前で
口を開けてその意思表示をし、
手で拝領を望む人は、手をきち
んと出せばよいことになりまし
た。ただし、この方法について
は、強制されたり、強制したり
すべきものではありません。
「手は不浄なものだから、口で
拝領する方法が、教会の伝統的
な正しい方法です」と、強要す
ることは間違っています。手は
不浄なものではありませんし、
教会の伝統といえば、前記した
ように、手で拝領する方法がよ
り古い、初代教会からの伝統と
言えるでしょう。

日本の司教団が、日本の風俗
習慣にてらして、これまで、多
くの人が司祭の前で口を開け
て、手で拝領することに心情的な抵抗感
を感じていたことに対し、「手
で聖体を受ける」許可を受けて
くださったことに感謝して、一
致のしるしである恵みをこわさ
ないようにならしましょう。

なお、ミサの間、日本ではひ
ざまずく動作の代わりに、深く
おじぎするといふ動作を採用し
ています。ですから、ひざまず
いてご聖体拝領することは、行
列にも混乱が生じますので、避
けたほうがよいとされています。

「家庭」 愛といのちのきずな

日力連熊本総会に参加して

日本カトリック女性団体連盟(日力連)第33回熊本総会「写真」に仙台から「あけの星会」(仙台地区連合婦人会)の会員が参加した。



5月22日、24日、熊本県の休暇村「南阿蘇」を会場に、札幌・仙台・新潟・さいたま・名古屋・大阪・高松・大分・長崎・那覇・鹿児島・福岡の各教区からの会員と日力連顧問の宮原良治大分司教はじめ14名の司祭を含め総勢175名が参集した。

仙台からは、佐々木博師、日力連副会長阿部正子、同監査木村公江他4名が出席した。

総会のテーマは、「家庭」愛といのちのきずな。議事の中で、各団体代議員からの報告では、竹内淑子会長が、あけの星会が日力連活動に真摯に取り組んでいることを報告した。タペの交流会は、歌やフラダンスと和やかな一夜となった。

翌朝はミサ、熊本帯山教会の川添 猛師のユーモア溢れる基

調講演、分かち合いと続いた。講演では、「家庭」が神の愛の出発点、独り子を神はヨセフとマリアの家庭に与えられた。公生活までの30年間は私たち親子の有り様の模範であり、聖書の随所を引用しながら神は愛であると強調された。

熊本の皆様の心のこもったもてなしを受け、最終日は、宮原司教司式の派遣ミサで総会を終了した。

来年の総会は、仙台が会場、「お待ちしております」と挨拶して帰途についた。

(元寺小路 阿部利枝)

4月24日(火)、あけの星会員と男性(55名)が元寺小路教会小聖堂に集い、指導司祭の佐々木博師司式で、「4・25いのちの日」ミサをささげました。

日本カトリック女性

あけの星会 「4・25いのちの日」ミサ

団体連盟は、1999年の創立25周年記念沖縄大会で、「4・25いのちの日」を定め、翌年からこの日のためのミサを実施しはじめました。

これを受けてあけの星会でも2000年から毎年ミサを実施し、いのちは神様からいただいた賜であることを思い起こし、神の愛に感謝し祈りをさ

さげました。

また、日力連「いのちを守る運動基金」より、DV被害の女性や子どもを保護し自立のための援助をされている、各地の

13施設へ 支援金の 贈呈の一環として、ミサ後、仙台の「すみれ荘」へ支援金を贈りました。お世話くださっている「写真」。大切な使命だと思いました。

に過ごせる環境づくりに役立っていることへの感謝のことばをいただき、近年は幼い子ども連れの若い母親の駆け込みが増えている現状も報告されました。

(東仙台 阿部正子)



告知板

森一弘司教様黙想講話

日時 7月8日(日) 9時ミサ後~15時

会場 カトリック四ツ家教会

テーマ 「信徒が支え生きる教会」

講師 森一弘司教

主催 四ツ家教会

平和旬間講演会

演題(仮題) ハンセン病回復者が訴える差別偏見の現状と明日への希望

講師 森元美代治さん(国立療養所多磨全生園入所者自治会前会長)

日時 8月11日(土) 午後2時より

場所 カトリック元寺小路教会信徒ホール

主催 カトリック正義と平和仙台協議会

(連絡先: 猪俣 022-722-0533)

参加費 500円

ハンセン病問題に関するシンポジウム

テーマ ハンセン病とカトリック...隔離から解放へ

日時 2007年11月3日(土) 14:00~17:00

会場 カトリック元寺小路教会大聖堂

主催 日本カトリック部落問題委員会

共催 カトリック仙台教区人権を考える委員会

各地から

岩手県

ヨセフ師 叙階60周年

共同宣教司牧地区の盛岡3教会（盛岡上堂・志家・四ツ家）は、4月15日（日）四ツ家教会聖堂で、ベトレヘム外国宣教会のヨセフ・フーゲントブレル師「写真」の司祭叙階60周年を祝うミサと祝賀会が行われた。

盛岡地区と、岩手県内外の信徒200人余りが集まり、ヨセフ師田中師、土井師、梅津師の共同司式でミサがささげられた。

説教の中で、ヨセフ師は「イエスの復活を信じたいけれども信じられなかったトマスは、ご自分の体に触れよとのイエスの言葉に、イエスの体ではなく、イエスの慈しみに触れることができた」。『見ないのに信



じる人は、幸いである」とのみことばは、私たちの希望になると語られた。また、

少年時代の召命から、ヨハネ・パウロ2世の来日の際のメッセージに触れ、イエスのみ心との出会いの喜びを熱く語られた。

祝賀会は、聖堂をホールに模様変えして行われ、田中師、四ツ家教会信徒会長のお祝いの言葉に続いて、ヨセフ師の県内各地での司牧や登山の好きな同師の懐かしい写真が映し出され、参加者の感動を呼んだ。

どんな時も信徒のために祈り、信徒と共にあったヨセフ師に深い感謝と、健康でますますの活躍を願った。ヨセフ師は、「神に信頼し、互いに助け合うように」と信徒たちを励ました。

また、5月1日（火）労働者聖ヨゼフ、ベトレヘム外国宣教会本部（盛岡市志家）で、平賀司教を迎え、同会としての祝賀ミサと祝いの集いが行われた。

【ヨセフ師略歴】

1920年2月7日生まれ
1947年3月30日司祭叙階
1948年9月25日 来日
一関・水沢・釜石・盛岡・宮古な

宮城県

青年たちの活動

仙台の青年たちは、仙塩地区の教会学校教師会や中高生会のリーダー、有志グループ、小教区、または個人で各々活動しています。



野々島(塩釜市)でのキャンプ

青年会は、それらの中から、その都度有志が集まり、自分たちのネットワークで、仙台で各々活動している青年たち、または教区内外の青年たちをつなぐ機会を企画しています。花見、夏合宿、芋煮会、スポーツ大会、新年会といった交流会の他にも、昨年度は「新成人を祝うミサ」「あっちこっちミサ」「仙台さいたま交流会」「晴佐久神父講演会」などの企画を行

どの教会で司牧。現在は、盛岡地区の協力司祭。87歳

いました。また、次のような有志のグループも活動しています。「青年黙想会」2ヶ月に1回、青年が企画して、司教様や各地の司祭、修道者を講師に招き、黙想とミサを行っています。毎回、他教区の青年にも呼びかけ、参加があります。「宗教教師勉強会」月に2回、教員志望の学生や教育現場に関わる青年を中心に、「カトリック教会の教え」の勉強会を行っています。

福島県

白河教会日曜学校

今年度は新一年生5名を迎えて総勢22名のメンバーです。新学期は、4月22日の子供ミサから始まりました。この日はとても嬉しいことが重なり、素晴らしい恵みの日となりました。と言いますのは、今年度から月一回の子供ミサ時に、那須ガリラヤの家の神学生がきて日曜学校の子供たちと共に活動していただけるようになったのです。そして、この日の喜びはこれだけではなかったのです。前日、電話連絡網で平賀司教様が白河教会を訪問してくださると言う知らせがあったのです。



日曜学校のひとこま

司教様の来白は、来年1月に予定している堅信式の時と聞いていましたので、この突然の知らせには嬉しく心が弾みましました。当日、聖堂の入り口で早々に司教様にお会いしました。その時ご挨拶させて頂いて、「首を長くしてお待ちしていました」と、申し上げると、司教様は、私を見て、「そんなに首長くなってないよ」と、ジョークで返され、その第一声に親しみと暖かさを感じました。ミサ後は子供たちと神学生との交流会が行われ、それから司教様を囲んで、みんなで会食をしました。

(和知英子)



活動紹介

東仙台教会日曜学校

私たちは、通常月に2回ほど、日曜のミサ後に1時間から1時間半程度の活動を行っています。活動内容は、祈り、神様や教会に関する学習、そして皆で遊ぶ等々です。もちろん、始めと終わりのお祈りは欠かしませんが、それ以外に関しては、真面目にお勉強する時もある、ひたすら楽しく遊ぶ時もあります（リーダーの方が遊びに燃えること



も...）。出席する子供の人数も1人の事もあれば、5、6人來ることもあります。毎回、沢山の子供が集い、充実した活動を行うことが出来る、もちろん、それは素晴らしいことです。しかし、どんなに少ない人数であっても、ただただ一緒に話しかけ、お話しすることしかできない事があったとしても、それは日曜学校の存在意義を低めることには決してならないと思います。例えば1人の生徒であっても、ありったけ

私の気分転換

小さき幼稚園園長 京けい子
私は気が多い。それが本気で、どれが気分転換なのか、実のところ分からない。

掃除や洗濯でないことは確かである。読書は日常だし...。映画にはまり、洋画も邦画も見る。韓国ドラマの「チャンナム」には心を奪われている。でも待てよ。私は映画でも、ドラマでもメッセージを探すから結構疲れる。だから気分転換にはならない。娘が言う「リビングで人目もはばから



これってきつと気分転換！さあ、遊んでこよつと。

の真心と愛で子供と向き合うことが出来る場所が、共同体の中に確かに存在する。そのことが何より素晴らしいのではないだろうか。イエス様も、幼子達を誰よりも愛されたのですから。（赤井悠蔵）

修道院紹介

聖母被昇天会 弘前修道院

本会は、カナダ・ケベック州のトロワリヴィエールに程近い小さな村で生まれました。主任司祭は、小教区の子女の教育を教育修道女会に委ねたいと強く望み、既存の修道会を招こうと何度も試みましたがその願いはかなわず、とうとう地元の修道志願者たちで、創立することにしました。それで本会は、創立当初から主任司祭小教区と深い関わりを持っていました。カナダのセントローレンス河沿いの村々を訪ねると教会の隣に修道院と、かつて学校があったと思われるところにたくさん出合います。

今、私たち3人の小さな共同体は、学校教育の現場を離れ、弘前教会の真向かいに住



（Sr長谷川みほ）



新刊案内

『ニューエイジについてのキリスト教的考察』

著者 教皇庁文化評議会/記者 カトリック中央協議会/発行 カトリック中央協議会/定価 1600円+税

「ニューエイジ」とは、1980年代に米国などの先進諸国を中心に、世界的に広がっている一種の「新霊性運動」を総括的に表現している言葉です。本書は、教皇庁の評議会がまとめた役割を担っている「新宗教運動」についての研究グループの暫定的な報告書として発表されたものです。ニューエイジ運動が今や世界中の人々を惹きつける主なことは、既成の組織や制度によって満たされなかった渇きに答えたことにある。しかし、本書がはつきりと述べていることは、「ニューエイジとキリスト教」という二つのもの見方を調和させることは不可能、だということ。ニューエイジの人々はスピリチュアルという言葉や神秘主義、チャネリングと言ったり、また「祈りの集い」を開いたりしているの、うっかりすると、いつのまにかその考えに染められる危険性があります。彼らは、キリスト教の時代は終わり、今や水瓶座の新しい時代が来ていると言います。本書はそのための、第3章は「ニューエイジとキリスト教的霊性」第4章はその信仰の違い、第6章は注意点を挙げ、第7章に付録として、「ニューエイジ思想の要約用語解説」などを付けています。本書は司牧にあたる人々を対象に書かれたものですが、すべての信者の方々にお勧めしたい本です。